

令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果

沓見小学校

国語

◎は良好、▲は課題

<国語科における各観点に関連している内容>

◎言語に関する知識や技能面は、身に付いています。特に、情報の扱いに関する事項については、良くできていました。タブレットを使った授業で多くの情報を扱う機会があるためだと考えられます。今後も継続していきます。

「話すこと・聞くこと」について

▲目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を集め、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討することに課題がある。

(問題の概要)話し合いの様子から、Aさんの発言を説明したものを選択する。

A : 「仕事で大切にしていること」で話してくれたことをきっかけにして、「仕事で大変なこと」を聞くことができるかもしれないよ。

- 複数の質問の違いを明確にして聞くことで、聞きたいことを相手から引き出そうとしている。
- 複数の質問の違いを明確にして聞くことで、相手が答えやすい内容を選べるようにしている。
- 複数の質問を関連づけて聞くことで、相手が答えやすい内容を選べるようにしている。
- 複数の質問を関連づけて聞くことで、聞きたいことを相手から引き出そうとしている。

正答 3 多かった誤答 2

「きっかけにして」という言葉に着目し、複数の質問を関連づけていることを捉えることができていない。

[指導改善] 聞きたいことを相手から引き出すにはどうすれば効果的(複数の質問を関連させる)かを、インタビュー活動を通して実際に体験する活動を取り入れていきます。

「書くこと」について

▲書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることに課題がある。
(問題の概要)「ちらし(次ページに掲載 資料①)」の文章の構成の工夫を説明したものを選択する。

- 1 読んでほしい順序を明確にして、時間の流れに沿って書いている。
- 2 伝えたいことの中心を明確にして、内容のまとまりごとに分けて書いている。
- 3 文章の筋道が整うように、原因と結果を明らかにして書いている。
- 4 読み手の目的に応じて読めるように、使い方の手順に沿って書いている。

正答 2 多かった誤答 4

読み手の目的に応じて読めるように、使い方の手順に沿って書いていると捉えている。伝えたいことの中心を明確にして、内容のまとまりごとに分けて書いていると捉えることができなかつたと考えられる。

[指導改善] 文章の構成を考えさせるために、書く内容の中心を明確にして、内容のまとまりで段落をつくり、段落相互の関係に注意したりするような文章を書く活動に取り組みます。

「言葉の特徴や使い方に関する事項」について

○課題であった漢字は、今年度は書けていました。

(問題の概要)

次の下線部ア、イを漢字でていねいに書きましょう。

- 1 相手のア:このみに合わせて……。
- 2 イ:あつい日に、水でぬらして……

正答
ア 好 イ 暑

[指導改善] 引き続き授業や家庭学習で、丁寧に指導し漢字の定着を図ります。また、基礎力向上のために、定期的に行っている取り組みをさらに充実させます。

令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果

沓見小学校

国語

◎は良好、▲は課題

<国語科における各観点に関連している内容>

「読むこと」について

▲目的に応じて、文章と図表などを結びつけて、必要な情報を見つけることに課題がある。

(問題の概要) 話し合いの様子からTさんの発言の空欄に当てはまるものを選択する。

T:こんなふうに、人によって言葉の意味のとらえ方がちがうと、伝え合うときに困ると思うよ。だから【資料1】に「 」と書かれているとおりだと思うよ。

- 1 この本を読むとお気づきになると思いますが
- 2 「本来の意味」「本来とはちがう使い方」といった言い方にとどめています。
- 3 コミュニケーションの食い違いを放置しておくわけにはいきません。
- 4 「言葉は生きている」とも言われます。

正答 3 多かった誤答 2

「人によって言葉の意味のとらえ方がちがう」ことを「本来の意味」「本来とは違う使い方」であると考え、複数の資料を結びつけようとしたが、必要な情報を整理できなかった。

[指導改善]目的に応じて必要な情報かどうかを確かめたり、情報と情報がどのような関係にあるのかを考えたりしながら読むことができるよう取り組んでいきます。

資料①

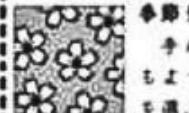
【ちらし】

手ぬぐい

手ぬぐいには、いろいろなよさがあります。
そのよさとは、どのようなものでしょう。

上向き もよう

さまざまなものがあり、すきなもようを選ぶことができます。
片づけなどとしてもぴったりです。



季節を感じるもよう

手ぬぐいには、植物や風景をもとにした
もようがあります。季節に合わせて手ぬぐい
を選ぶことができます。



しゅみやすきなものに合はせたもよう

スポーツや音楽などに関係するもようの
手ぬぐいもあります。相手のアーティストに合わせて、もようを選び、おくることができます。

上向き 着い方

手などをふくだけではなく、身に巻けたり、物を包んだり
することもできます。

身に巻ける使い方

あつい日に、水でぬらして首にまくと、すずしく感じます。
また、外で作業をするときに頭にかぶると、あせをさげ
しょうし、両手が空くので仕事がしやすくなります。

物を包む使い方

手ぬぐいは、いろいろな物を包むことができます。

このように、手ぬぐいには、いろいろなよさがあります。
みなさんもぜひ使ってみてください。

令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果

沓見小学校

算 数

◎は良好、▲は課題

<算数科における各領域に関連している内容>

◎全体的に国、県と比較してもよい結果です。昨年度より算数を中心に、ICTと協働学習を通して、子どもたちが自ら学習をすすめ、より学びを深める授業を目指して取り組んできました。その成果ととらえ、今後も引き続き取り組んでいきます。

「数と式」について

▲分数の加法に関して、通分することは分かっているが、通分の意味(単位分数を見だし、その幾つか)を十分理解できていない。

(問題の概要) $\frac{3}{4} + \frac{2}{3}$ について、共通する単位分数と、 $\frac{3}{4}$ と $\frac{2}{3}$ が、共通する単位分数の幾つ分になるかを書く。

正答例 共通する単位分数は $\frac{1}{12}$ で、 $\frac{3}{4}$ は $\frac{1}{12}$ の 9 個分、 $\frac{2}{3}$ は $\frac{1}{12}$ の 8 個分である。

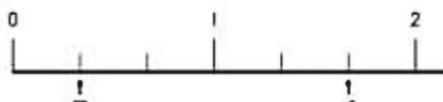
主な誤答

3 と 4 の最小公倍数 12 で、分母をそろえることができる。 $\frac{3}{4}$ は $\frac{9}{12}$ 、 $\frac{2}{3}$ は $\frac{8}{12}$ になる。

[指導改善] 計算方法だけではなく、その計算の仕組みや基本用語を丁寧に扱う授業に取り組みます。

▲分数の単位分数を見つける際、数直線上で1の目盛りに着目できていない。単位分数の意味を理解できていない。

(問題の概要) 数直線上に示された数を分数で書く。



正答例 ア $\frac{1}{3}$ イ $\frac{5}{3}$ または
1と $\frac{2}{3}$

主な誤答

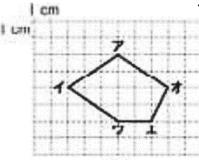
ア $\frac{1}{6}$ イ $\frac{5}{6}$ (2の目盛りまでを6等分している)

[指導改善] 分数の意味を十分に理解できるように、図を使い、対話しながらその理解を深めていくような授業に取り組みます。

「図形」について

▲面積を求める公式などは、しっかり理解できている。しかし、その公式に当てはめて、図形から正確な長さを読み取ることができない。

(問題の概要) 下図のような五角形の面積の求め方を、図から長さを調べて、式や言葉を使って書く。



主な誤答 図形の面積の求め方を言葉の式で記述することはできている。しかし、必要な長さを見いだして式や言葉を用いて記述することができない。

[指導改善] 公式を利用する場合、図形のどの部分を使えばよいかを確認しながら求める学習を取り入れていきます。



正答 1. 1倍
主な誤答 0. 1倍

「変化と関係」について

▲「10%増量」について、百分率で表された10%を0.1とすることはできているが、「増量後の量」が「増量前の量」の110%になることを捉えることはできていない。

(問題の概要) 「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表す。

[指導改善] 基準量と比較量、割合の関係を正しく捉るために、言葉や図、式を関連づけながら数量の関係を考える授業に取り組みます。

「データの活用」について

▲目的に応じて適切なグラフを選び、それを基に理由を記述することに課題がある。(問題の概要) 都道府県Aのブロッコリーの出荷量が増えたかどうかを調べるために、適切なグラフを選び、出荷量の増減を判断し、その訳を書く。

主な誤答 出荷量ではなく出荷量の割合に着目して、それを基に説明している。

[指導改善] 様々なグラフの特徴を理解し、目的に応じて適切なグラフを選び、それを基に説明する活動を取り入れます。

令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果

沓見小学校

理科

◎は良好、▲は課題

<理科における各領域に関連している内容>

◎全体的に国、県と比較しても大変よい結果です。少人数の強みを生かして、実験や観察をできるだけ全員ができるように、授業づくりをしています。失敗を恐れず経験する中から、理科の楽しさを味わえるよう今後も取り組んでいきます。

「エネルギー」を柱とした領域について

▲電気を通す物と磁石に引き付けられる物に関する知識が身についていない。

(問題の概要)身の回りの金属(アルミニウム、鉄、銅)について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物の性質についてそれぞれ選ぶ。

主な誤答 鉄以外の金属について、電気を通さないという性質を選んでいる。

[指導改善]磁石の单元で実験をする際、電気で学んだことをふりかえり、比較しながら授業に取り組みます。

「粒子」を柱とした領域について

▲氷の量と気温上昇とを関連付けることができていない。

(問題の概要)水が氷に変わる温度をもとに、オホーツク海の氷の面積が減少した理由を予想し表現する。(関係資料は次ページに掲載 資料②)

主な誤答 水が温度0°Cになると氷に変わることは理解しているが、それを基に温度の変化と氷の面積の増減を関連させられていない。

[指導改善]習得した知識を他の学習や生活と関連付けながら、授業や実験・観察に取り組みます。

「生命」を柱とする領域について

▲複数ある条件の中から、必要な条件を選び、新たな問題を見いだすことができていない。

(問題の概要)レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見いだし、表現する。(関係資料は次ページに掲載 資料③)

主な誤答 まだ調べられていない条件（ここでは日光または肥料）を見いだし、レタスの種子の発芽に関する問題として適切に表現することができていない。

[指導改善]観察、実験の結果を比較して、差異点や共通点を基に、具体的な条件に着目した問題を見いだす場面を設定します。

「地球」を柱とした領域について

▲実験の数値を使いながら、結果について記述することができない。

(問題の概要)粒の大きさによる水のしみこみ方の違いについて、実験結果(数値など)を基に結論を導いた理由を表現することができるか。(関係資料は次ページに掲載 資料④)

主な誤答 粒の大きさの違いによってしみこみ方が違うことは分かっているが、具体的な数値を使って詳しく説明できていない。

[指導改善]根拠となる結果を具体的な数値などを用いて表現することで、より妥当な考えをつくりだすことができるような授業に取り組みます。

資料②

ひろみさんとゆういちさんは、地温に関するニュースを知り、話しています。

日本の「冬期の平均気温が、過去100年前で約1℃高くなったことをニュースで知りました。」
ひろみ

「気温が高くなつて起こったと考えられることが、ひろみさんと同じくありましたことを、「学習したこと」と「実験したこと」に分け、まとめました。」
ゆういち

理科学習まとめ

気温が高くなつて起こったと考えられること
日本の冬期にある
オホツク海に見られる氷が
最も広がったときの面積は、
1971年から2023年の間で、
10年あたり5.5万km²の割合で減少した

気温が高くなつて起こったと考えられること
日本の海面水温(海水の平均の温度)が
2006年から2018年の間で
1年あたり3.3nmの割合で
上昇しました

学習したこと
海水は、冷えると
じて水に変わる
海水が高くなると、
氷になる事や水が
たくさんとける

実験したこと
海水だけでは水は
常に流れてい
ません
海水だけでは水は
常に流れてい
ません
海水は、流れると
体積が増える

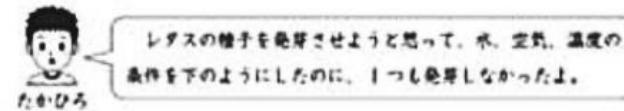
(カ)
(キ)
(ク)

(3) 図の(カ)から(ク)の中には「学習したこと」や「実験したこと」もとに考えたことがあります。(カ)から(ク)の中にははる
るものも、他の1から4の中からそれをつけ足して、それを書きなさい。

1 水は、蒸ると水と同じように体積が増え
2 水の水は、平均気温が高くなるときにいく
3 水は、高い場所から低い場所へと流れ
4 水は、氷になると体積が増え

資料③

たかひろさんは、レタスの種子を発芽させようとしています。



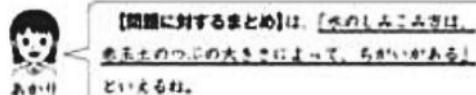
資料④

あかりさんは実験を行い、得られた【結果】を下のように整理しました。

【結果】 (春玉土に水がしみこむ時間)

	コップA (大きい口)	コップB (小さい口)
1回目	3秒	11秒
2回目	4秒	10秒
3回目	4秒	11秒

あかりさんは、【問題に対するまとめ】を考えています。



水、空気、温度のはかにも、レタスの種子が発芽するためには、必要な条件があるのかもしれない。レタスの種子が発芽するためには、必要な条件を、上の【条件】の中から1つ選んで調べてみたい。

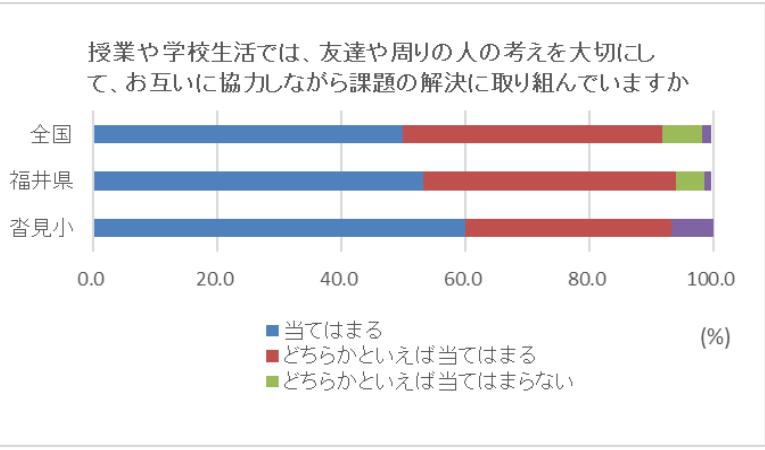
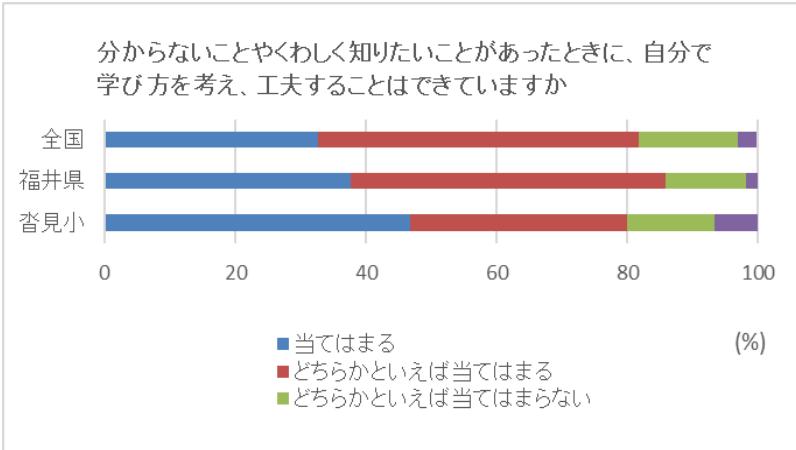


(2) あかりさんが下線部のようにまとめたわけを、上の【結果】を使って書きましょう。

質問紙の結果から①

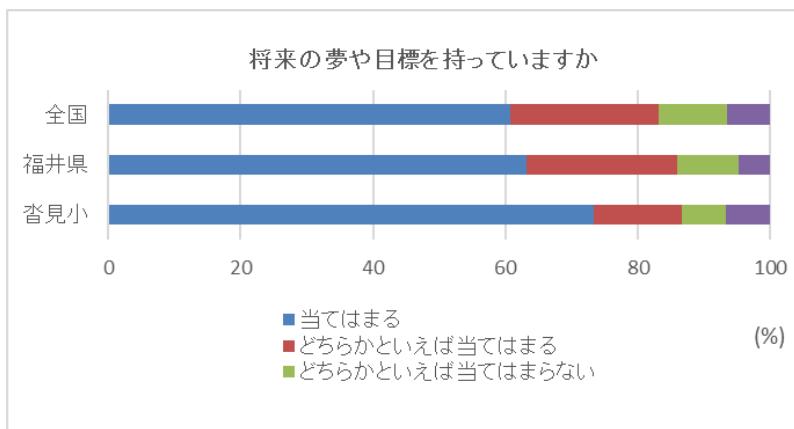
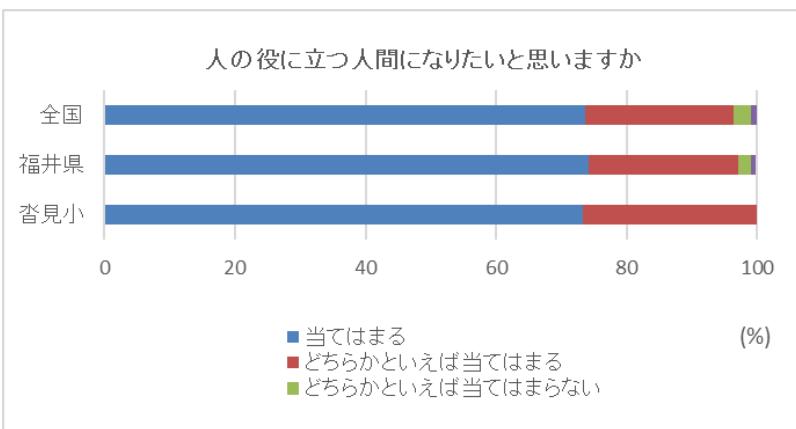
本校児童の特徴を表していると思われるものを抜粋して紹介します

主体的・協働的で深い学びをめざした授業について



自ら考え、工夫し、友達と協力しながら学習に取り組んでいる児童は、昨年度同様多いことが分かります。しかし、できていないと考えている児童が増加しており、今後の授業内容や活動を見直す必要があります。教員の支援のあり方について、全体で話し合い、実践していきます。

将来の自分について



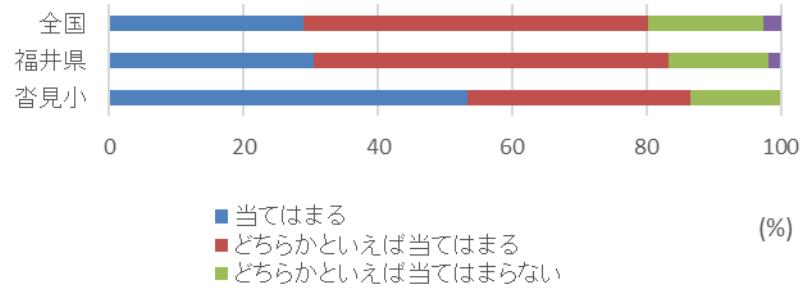
将来について考えたり、人の役に立ちたいと考える児童の割合が、昨年度に比べて減少しました。道徳や特別活動などを通して、思いやりや人の役に立つことを考えさせていきたいです。また、キャリア教育にも引き続き取り組んでいきます。

質問紙の結果から②

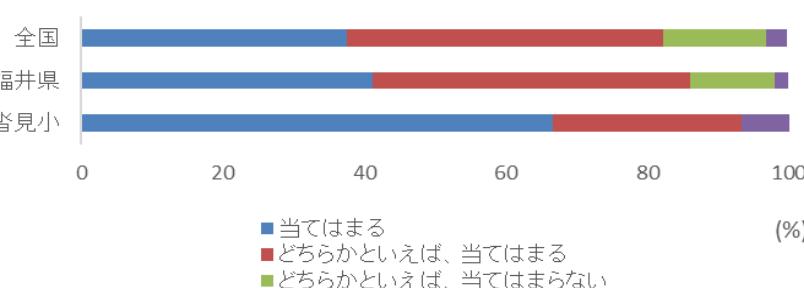
本校児童の特徴を表していると思われるものを抜粋して紹介します

探究的な学びについて

5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか



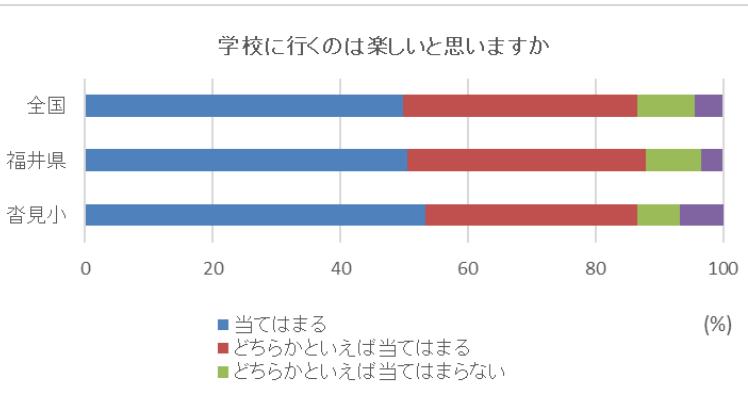
総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか



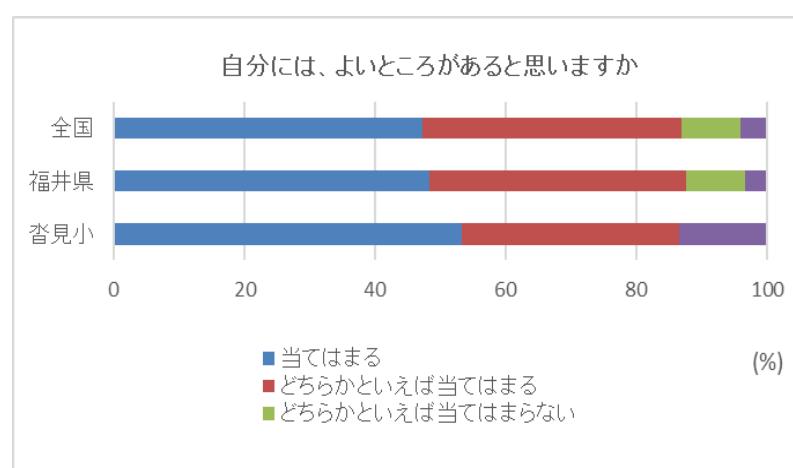
課題設定→情報収集・整理・分析→まとめ・表現→振り返りを生かした授業づくりに取り組んでいます。子どもたちが「探究的な学び」のプロセスをいかした学びができるよう、今後も実践を積み重ねていきます。

児童の自己有用感、幸福感等について

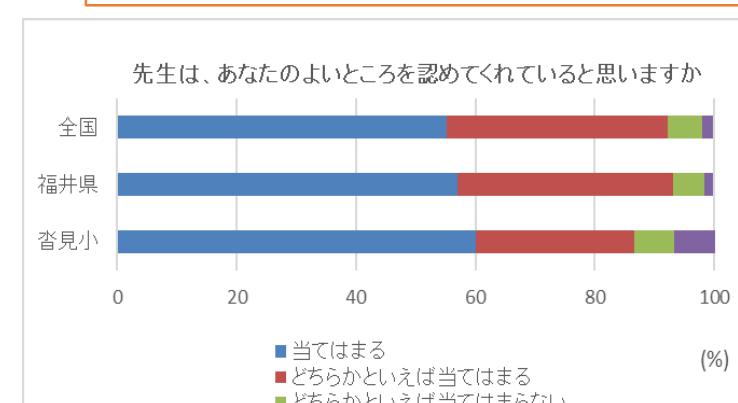
学校に行くのは楽しいと思いますか



自分には、よいところがあると思いますか



先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



今年度多くの児童が学校生活に満足しているようです。しかし、いずれの項目も否定的な考え方の児童が若干見られます。今以上に児童と向き合い、良さを認め、褒めることで、児童の自己肯定感を育みます。そして、児童が学校を好きだと感じられるように、教職員全体で支援していきます。